

令和5年11月17日  
生涯学習・文化財室

## 富山県登録無形民俗文化財の新登録について

富山県文化財保護条例第20条の13第2項の規定により、教育委員会から県文化財保護審議会に、富山県登録無形民俗文化財について諮問したところ、本日、審議会より下記のとおり答申されました。

### 1 文化財の概要

- (1) 名称 お鍬様（おくわさま）
- (2) 所在地 富山市岩稲（旧細入村）
- (3) 概要

年頭にあたって豊作を祈願して模擬的に耕作を演じる予祝儀礼の一つで、田打ち正月に相当すると同時に、農耕開始に先立って農耕の神を田畑に送り出す行事でもある。

また、2本の鍬を田の神と畑の神に見立てている点は、全国的にも類例が少なく、この地域が稲作だけでなく畑作も重視してきたことをよく示している。

### 2 登録の理由

この行事は地域的特色が顕著で、県内に伝承されてきた年頭の農耕儀礼を理解するうえで注目されること、さらには県内に唯一、保存・継承されていることから、保存及び活用のための措置が特に必要である。

### 3 登録の意義

- (1) 地域特有の祭り・行事を見直す契機となり、保存継承への意欲が高まる。
- (2) 地域資源として再認識され、地域の文化財として情報発信されることによって、県民のシビック・プライドの高まり、ひいてはウェルビーイング向上にも資する。
- (3) 県の登録制度による幅広い文化財の保護につながる。

### 4 今後のスケジュール

- (1) 令和5年12月28日 教育委員会への付議・議決
- (2) 令和6年1月上旬 登録簿に登録、県報告示

#### 【参考】本県の無形の民俗文化財の指定・登録状況

- 国指定 9件 高岡御車山祭の御車山行事、越中の稚児舞など
- 国登録 0件
- 県指定 11件 出町子供歌舞伎曳山、小川寺の獅子舞など
- 県登録 0件 ⇒ 1件

種類	無形の民俗文化財（風俗慣習）
名称	お鍬様（おくわさま）
所在地	富山市岩稲
行事の流れ	<p>富山県南部に位置する富山市岩稲は、神通川中流部左岸の戸数 14 軒ほどの集落で、古くから稲作のほか、畑作が行われてきた。</p> <p>(1) 行事前日 1 月 10 日の夕方、三ツ鍬と平鍬を納屋から母屋の広間（オエ）の座布団に迎え、お茶とミカンを供える。三ツ鍬を田の神、平鍬を畑の神に見立てて、この二柱を「お鍬様」という。</p> <p>(2) 翌 1 月 11 日朝 8 時、お鍬様を座敷の床の間の前の座布団 2 枚にそれぞれ安置し、その前に朱塗りの御膳を 2 組据える。各御膳には、焼いた尾頭付きの鯛 1 尾、昆布巻き、田作り、醤油で煮たえび、中央に黒豆、御神酒を注いだ盃、箸を載せる。</p> <p>(3) 主人がお鍬様に新年のあいさつ（昨年のお礼や近況報告、豊作祈願）をし、「マメに働けるよう黒豆」、「腰が曲がるまで働けるようエビ」というように御膳の料理の紹介をして酒食でもてなす。また、その後、お鍬様の勧めで主人もご相伴にあずかる。</p> <p>(4) 頃合いを見て、主人が平鍬を持って家の前（南東）にある畑に移動する。恵方とされる東を向き、平鍬を打ち込む動作を、右 3 回、左 3 回と 2 回繰り返す（畑の畝を作る動作）。その後、恵方とされる東に向かって手を合わせて、行事を終了する。</p>
文化財としての評価	<p>お鍬様は、毎年 1 月 10 日から 1 月 11 日にかけて行われる豊作を祈願する農耕儀礼である。農耕用の鍬を神と見立て、座敷の座布団に安置し、その前に朱塗りの御膳を用意し、主人がお鍬様と問答を重ねて、酒食でもてなす。その後、主人が自宅前の畑に出て、恵方とされる東を向いて平鍬で畝を作る動作をした後、手を合わせる。</p> <p>この行事は、かつては旧細入村笹津・岩稲・楡原の家々で広く行われていたが、現在は岩稲の本芳家でのみ伝承されている。年頭にあって豊作を祈願して模擬的に耕作を演じる予祝儀礼の一つである田打ち正月に相当すると同時に、農耕開始に先立って農耕の神を田畑に送り出す行事でもある。また、2 本の鍬をそれぞれ田の神と畑の神に見立てている点は、全国的にも類例が少なく、この地域が稲作だけでなく畑作も重視してきたことをよく示している。</p> <p>この行事は地域的特色が顕著で、県内に伝承されてきた年頭の農耕儀礼を理解するうえで注目されることから、保存及び活用のための措置が特に必要である。</p>



お鍬様へのあいさつの様子。

(2007年撮影)

(富山市教育委員会提供)



お鍬様へのあいさつの様子。お鍬様と問答を重ねる。

(2007年撮影)

(富山市教育委員会提供)



お鍬様を酒食でもてなす。

(2007年撮影)

(富山市教育委員会提供)



田の神様（右）、畑の神様（左）を座敷の床の間の前の座布団にお迎えし、朱色の御膳に載せた農作業に縁起のよい料理を供する。

（2007年撮影）

（富山市教育委員会提供）